



2022年4月12日

各位

会社名 UBE株式会社  
代表者名 代表取締役社長 泉原 雅人  
(コード番号 4208 東証プライム市場・福証)  
問合せ先 総務部長 中山 真吾  
(TEL. 03-5419-6110)

## 「2050年カーボンニュートラルへの挑戦」に向け新たな中期(2030年度)目標を設定

UBEグループ(UBE株式会社及び連結子会社)は、地球環境問題への取り組みにおける中期(2030年度)目標を見直し、温室効果ガス(以下「GHG」)排出量を2030年度までに50%削減(2013年度比)し、「環境貢献型製品・技術」の連結売上高比を60%以上とする新たな目標を設定しました。

UBEグループは、2021年に「UBEグループ2050年カーボンニュートラルへの挑戦」を発表し、自らの事業活動から排出されるGHGの実質排出ゼロに挑戦するとともに、その中間目標として2030年度までに化学部門においてGHG排出量20%削減(2013年度比)を掲げていました。

今般、セメント事業等を分社化してUBE三菱セメント株式会社へ移管し、UBEグループがスペシャリティ化学を中核とする企業グループへ移行したことを機に、従来の目標を見直すことといたしました。

UBEグループは、地球環境問題への取り組みをより一層強化し、引き続き社会全体のカーボンニュートラルに貢献してまいります。

### ■2030年度目標

- ①GHG排出削減目標： 50%削減(2013年度比) [従来は化学部門で20%削減]
- ②「環境貢献型製品・技術」の連結売上高比目標： 60%以上 [従来は50%以上]

### ■カーボンニュートラルに向けた施策

#### 1) 省エネ推進・プロセス改善

生産活動における徹底した省エネ推進・プロセス改善に継続的に取り組むことで、化石資源利用の極小化等を推進します。

#### 2) 再生可能エネルギー利用の最大化

工場における太陽光発電の導入及び風力や太陽光、バイオマスなど再生可能エネルギー由来電力の調達を推進し、再生可能エネルギーの利用を最大化していきます。

#### 3) 事業構造改革

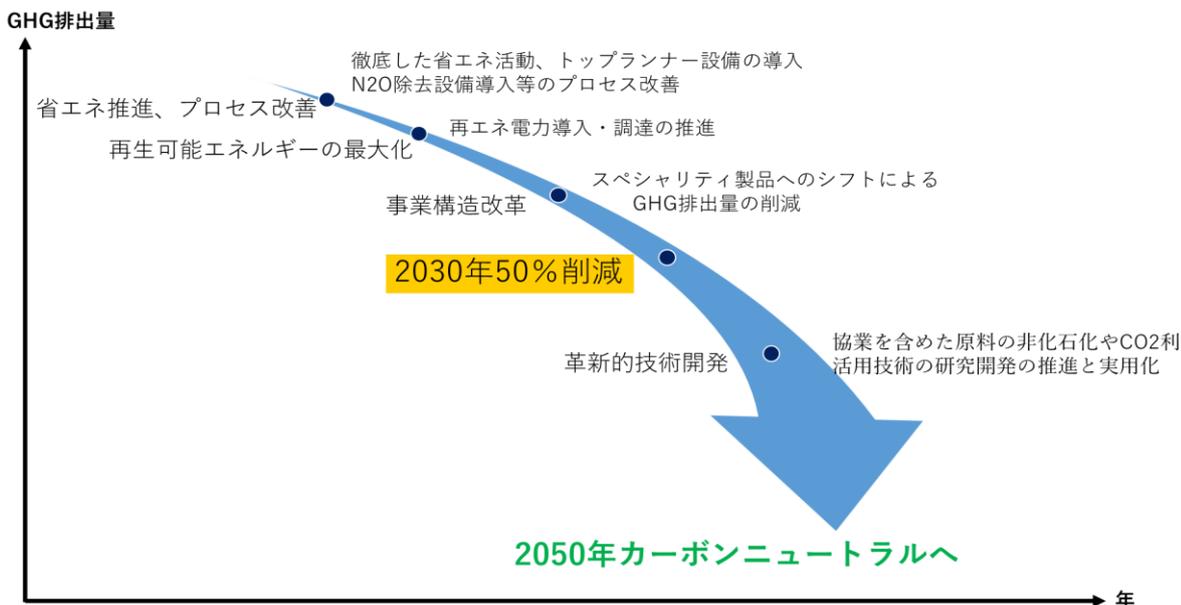
スペシャリティ製品へのシフトは、化石資源の利用極小化等によるGHG排出量削減とともに、原燃料などの市況に大きく左右されないレジリエントな事業構造への転換に繋がります。UBEグループは、収益性・成長性の面からもスペシャリティ製品を中心とする環境負荷の低い事業構造を目指すとともに、ベーシックケミカル製品の高付加価値化や事業の構造改革も進めます。

#### 4) 革新的な技術開発

2050年のカーボンニュートラル達成には革新的な技術開発が不可欠であることから、中長期的な

視野で、他社等との協業を含めた原料の非化石化や CO<sub>2</sub> 利活用技術の研究開発・実用化にも取り組みます。

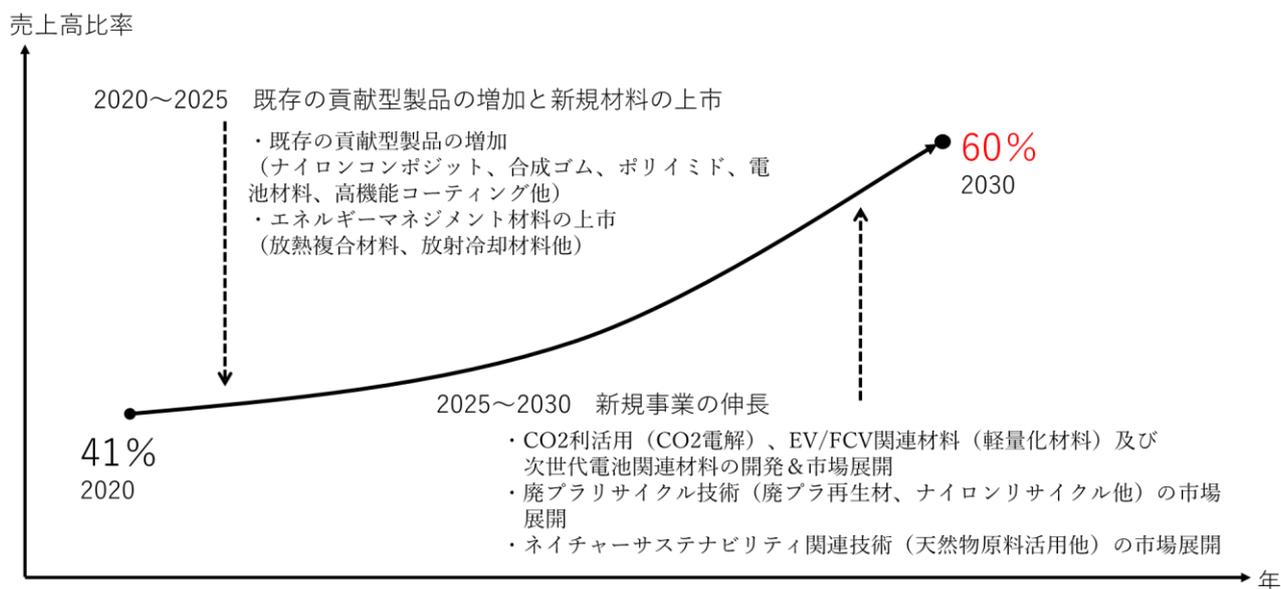
<カーボンニュートラルに向けたロードマップ>



■環境貢献型製品・技術の連結売上高比

UBE グループでは、ISO14001：2015 改訂版をもとにガイドラインを策定し、環境貢献型製品・技術を定義しています。環境貢献型製品・技術の開発をさらに推進し、より多くのお客様に提供することで、社会全体のカーボンニュートラルへの貢献を目指します。

<環境貢献型製品・技術連結売上比 60%以上にするためのタイムライン>



【ご参考】

■「UBE グループ 2050 年カーボンニュートラルへの挑戦」(2021 年 4 月 26 日)

[https://www.ube.co.jp/ube/jp/news/2021/20210426\\_01.html](https://www.ube.co.jp/ube/jp/news/2021/20210426_01.html)

■UBE グループの地球環境問題への取り組み

<https://www.ube.co.jp/ube/jp/sustainability/rc/environment/issues.html#>